

## ◆公式ワナゲ

### 1. ワナゲとは

紀元前200年頃、ヨーロッパで馬の蹄鉄をステーキ（目標棒）に投げ入れて楽しんだのが最初とされています。日本では、戦後台上の数字の楯・横・斜のいずれの和（+）も15となる配列を施し、1967年に日本ワナゲ協会が発足しました。

ワナゲゲームの運動量は、3～5（kcal/min）程度で、健康に良いとされる1分間に80mの歩行と同じ運動効果が望めます。

### 2. 使用する用具

①台（60cm×60cmの白地の木製台）②リング（赤4本、黄4本、青1本の輪）

### 3. 場所

屋外・室内を問わず、平坦な場所に台を設置して2本のラインを引き、公式ルールでは2mより投輪〔とうりん〕を行う。申し合わせにより、競技者の身体条件、技術レベルに応じて投輪距離を別に設定しても構わない。

### 4. 競技方法

（1）単独投輪方式「参加者数の多い大会の予選向き」

①9本のリング（赤4黄4青1）を続けて全部投げる。

②リングを投げるときは、どのように持っても構わないが、必ず片手で輪を持ち投輪ラインの手前から投げる。その時両足は地面に接していなければならない。また、ラインを踏んだり越したりしてはならない。投げ方に違反があった場合は、そのリングは無効として取り除く。

③無効リングによって、既にポールに入っているリングが外れた場合は、外れたリングを元通りポールに戻す。但し、ワナゲ台に乗っていたリングが移動した場合はそのままにし、一度床に落ちたリングがその後台上に乗った場合は、その都度リングを取り除く。

④ワナゲ台の上に乗っているがポールに入っていないリングが、その後のプレーでポールに入った場合、有効得点となる。

⑤得点は、9本全部のリングを投げ終わった後、次のプレーヤーが計算する。

#### ◎得点

①ワナゲ台のポール下にある数字が得点となる。

②縦横斜のいずれか1列にリングが入った場合は『一期の原則』により  $15 \times 2 = 30$  の点数になる。全部のポールに1本ずつリングが入った場合はパーフェクトで300点となる。

#### ●得点例

④	2	⑨		②	1
③	1	⑤	1	⑦	
⑧	1	①		⑥	1

30点×3列 90点

※「一期の原則」により

他点数 4点

―――  
 総合計 94点

(2) 交互投輪方式「競技者だけでなく観戦者も充分楽しめる大会の決勝向き」

- ①ジャンケンで勝った方が先攻（赤4本）負けた方が後攻（黄4本）となり、1投ずつ交互に投輪する。『負け後攻の原則』
- ②青リング（アンカーリングと呼ぶ）は投輪ライン付近の、投輪に支障のない場所に置く。＊リングの投げ方、有効得点、無効得点は単独投輪方式を参照。
- ③各4本ずつリングを投げ終わり、互いの点数を確認した後、点数の低いプレイヤーには、「アンカー権」が与えられる。同点であった場合は、アンカー権は施行されない『和の原則』。
- ④得点は、アンカーリング投輪後に互いの点数を確認する（相互審判）。
- ⑤1試合は3セットで競い、2セット以降は前セットで負けた方が後攻となる。『負け後攻の原則』。
- ⑥1試合3セットマッチで、2セットで勝敗がついても3セットまで行う。
- ⑦勝敗は、2セット以上勝った方が勝ち。同点の場合は総合点の高い方が勝ち。それでも同点の場合は「一投勝ち」で決める。

※「一投勝ち」とは、各自1本ずつリングを交互に投げ合い、点数の高い者を勝ちとする方法である。それでも同点の場合は、勝負が決まるまで投げ合う。

◎得点

- ①得点の数は単独投輪方式と同じ。
- ②アンカーリングにも『一期の原則』が適用される。

●スコアカード記入例

氏名	1	2	3	総合計	勝敗	一投勝ち
太郎	黄 3 1	赤 1 1	赤 6	48点	1勝1敗1分	⑦
花子	赤 5	黄 1 1	黄 3 2	48点	1勝1敗1分	2